



2022年

みやま

第291号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



## 令和4年8月からの院内Free Wi-Fi運用開始について

院長 平川 淳一

精神保健福祉法第三十七条には、「入院患者の処遇は、患者の個人としての尊厳を尊重し、その人権に配慮しつつ、適切な精神医療の確保及び社会復帰の促進に資するものでなければならない」という理念があります。また、通信・面会についても、原則として自由と規定されています。特に、電話の制限については、病状の悪化や治療上の合理的な理由や方法、範囲に限られると規定されています。そのため、閉鎖病棟内には公衆電話の必置義務や権利の揭示、プライバシーへの配慮が求められます。しかし、一方で、携帯電話の普及で、公衆電話を使ったことがない人が増え、さらに、使用頻度の低下からNTTが公衆電話機の設置を控え、公衆電話機自体の生産も大幅に減少し、故障の際には代替え機の手配も難しくなっています。いまだきテレフォンカードもないだろうということでしょう。

そのような中、入院患者さんからFree Wi-Fiがないのかと求められる場面が増えてきました。現在の法律上では、Free Wi-Fiの必置義務はありません。また、過去に、如何わしいアダルトサイトの課金で借金を作ったり、ゲームを夜通しやって日中寝ているような患者さんもあったため、治療に影響があるということで導入を見合わせしてきた経緯があります。今回、デイルームに限定して時間を決めて、Free Wi-Fiが使えるようにします。しかし、不安はまだあり、携帯電話のカメラ機能で病棟のほかの患者さんの顔写真を撮って、SNSに流されてしまう可能性もあり、利用には患者さんにもモラルが求められます。便利な技術ではありますが、みんなでルールを守って継続していきたいと思います。それでも、もしトラブルやルール違反が発生した場合は、全病棟で廃止することになると思いますので、予めご承知ください。



【表紙】 院長あいさつ 【P2】 病棟たより (AX病棟) 【P3】 地域生活支援科より  
【P4】 検査科から 【P5】 今年も夏祭りを開催しました! 【P6】 こころの扉  
【P7】 入院受け入れの動向 【P8】 1年を振り返って

## アネックス病棟 ～認知症疾患医療センター10年経過～

アネックス病棟 師長 本田 美智子

認知症疾患医療センターとしての役割を担って10年が経過しました。10年前と比べると重症（重度のBPSD）かつ身体合併症を併発している患者さんが増加しています。また、地域の施設、病院からの相談、入院依頼が増え、入退院数が増加し、病棟業務が煩雑になっていますが、認知症対応に苦慮している家族や施設に少しでも貢献出来たらと思います。

認知症患者は、拒否「受け入れられない」ことの方が多いです。でもこれは、認知症看護では、拒否はつきものだと考えて対応しています。「お風呂行きましょうか?」「行かない。」「お食事召し上がりませんか?」「いりません。食べません。」もともとの性格的なものもあるかと思いますが、認知症になると

その傾向が強くなることが多いです。無理せず、時間をかけて工夫したりして対応しています。看護サイドだけでなく、医師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士等、様々な職種が、1人の患者さんのできる事は何か評価（姿勢・立位、歩行・作業できる能力・歯の状態、嚥下状態・食事内容検討）し、各々の専門性を発揮することで、最高の医療チームが成果を上げていると思っています。

もう目の前には、国民の4人に1人が75歳以上の超高齢化社会になります。高齢者が増えれば、おのずと認知症の患者さんが増加します。これからますます増える認知症の患者さん及び家族の方に、「平川病院に来てよかった。」と思える病棟にしていきたいと思っています。

アネックス病棟から眺める景色は、特に朝は、新宿まで見える日の出、夕方は、きれいな夕焼け、雨上がりの霧・霽は、幻想的です。景色を眺めながら、気分をリフレッシュさせ看護しています。



## 連載予告

地域生活支援室より

# 「平川病院における成人の発達障害に対する取り組み」

地域生活支援科 テイクア 井出 学

発達障害は先天的な脳の機能の偏りが原因で社会生活やコミュニケーションに困難が生じている状態を言います。主な種類として自閉症スペクトラム障害（ASD：対人関係や想像性の障害）、注意欠陥・多動性障害（ADHD：不注意・多動性・衝動性による障害）、学習障害（LD：読む・書く・計算など特定の学習に困難のある障害）が挙げられます。発達障害は従来、小児期特有の問題とされ、成人期の精神医学的な問題として対象とされることは稀でした。2004年に発達障害者支援法が施行されるまで発達障害者への支援を定めた法律もなく明確な定義もされていませんでした。知的障害を伴わない発達障害のある人は法制度の狭間で取り残されて、教育や産業など、様々な領域で困難を抱えつつも支援を受けられないという状況が長く続きました。その後2016年に同法が改正されると、基本理念として「社会的障壁の除去（発達障害のある人が社会生活を営む上で直面する不利益は社会の責任であるという考え）」「切れ目のない支援（発達障害の早期発見とともに

就学前教育、小学校、中学校、高校、大学、職場といったライフステージを通じて相互に情報を共有し継続的な支援を行っていくこと）」が明示されました。こうした社会的要請に答えるべく、平川病院では2018年7月に発達障害の専門外来、専門プログラムを開始しました。発達障害専門外来では主に、小児期から発達障害の診断を受け成人年齢に達したために小児科や児童精神科から引き継ぐケース、成人期に至り社会参加における不適応などから初めて診断を受けるために受診をするケースといった、取り残されてしまうことのあったケースに重きを置いています。またテイクアには発達障害専門プログラムを設置し、就労支援を軸とした社会参加プログラムを開催しております。これまで「みやま」の中で単発的に報告をして参りましたが、4年を経過した現在の平川病院の成人期発達障害に対する取り組みを連載にてお伝えさせて頂きたいと考えております。予定している連載テーマを掲載しました。皆様に楽しみにして頂ければ幸いです。

みやま「発達障害連載」企画

第1回 成人発達障害者について

第2回 平川病院発達専門外来について

第3回 発達障害専門プログラムについて

第4回 発達障害と就労について

第5回以降の予定

発達障害と一人暮らし／発達障害と依存症／発達障害と家族  
来月9月号から順次掲載致します。

# たかが脂肪肝・されど脂肪肝

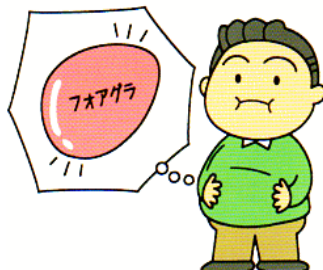
検査科から

中央検査科 臨床検査技師 主任 齋藤 知香

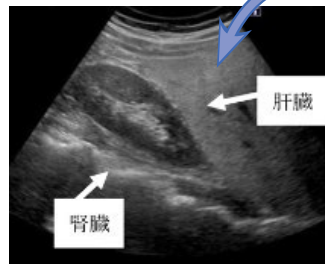
健康診断の腹部超音波（エコー）検査で多くみられる異常所見の一つに「**脂肪肝**」があります。



脂肪肝とは、脂質の1つである中性脂肪が肝臓内に多く蓄積する状態です。一言で言えば



状態です。



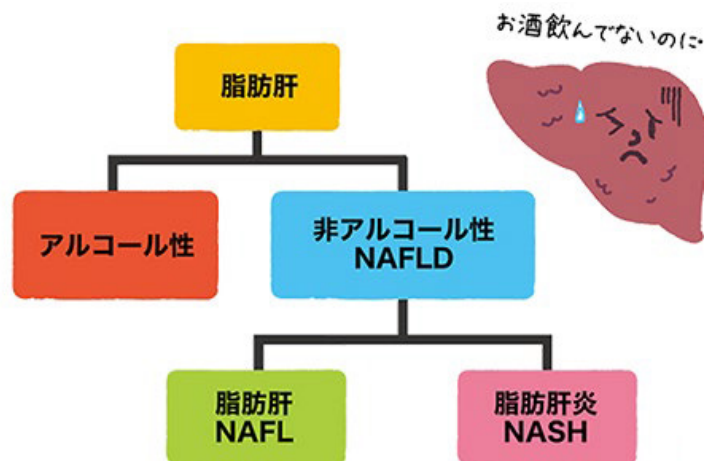
脂肪の沈着により腎臓と比べて肝臓が白く見えます。

人間ドックや健康診断を受診された方の男性で約30%、女性で約10%が脂肪肝を指摘されています。

【脂肪肝を大きく2つに分類すると】

アルコールが原因の「アルコール性」とそれ以外が原因の「非アルコール性」に大別されます。

非アルコール性（NAFLD）には、**肥満・糖尿病・脂質異常症・高血圧**などが主な原因になります。



そして非アルコール性の脂肪肝には肝臓に脂肪が沈着するのみの**※単純性脂肪肝（NAFL）** 脂肪肝から炎症や線維化を伴い肝硬変や肝がんなどに進行するリスクのある **※非アルコール性脂肪肝炎（NASH）** があります。（NAFLDのうち約1～2割がNASH）

お酒の飲み過ぎが肝臓に悪いことは一般的に知られています。しかし、実は日本人の脂肪肝の原因で多いのは、飲み過ぎではなく、食べ過ぎによるものです。脂肪肝の人が全員、重症化する訳ではありませんが、早期に発見して原因となる生活習慣や肥満を改善していく必要があります。



## 今年も夏祭りを開催しました！

作業療法科 作業療法士 岡本 晃宜

コロナウイルスの影響により、例年行なっていた八王子駅周辺への外出プログラムや文化祭等は中止となり、地域に出て社会経験をしたり、地域の方々と交流をする機会が減少しています。そんな中、病棟内で『夏』という季節感を存分に感じることができるよう、患者様が日々作業療法へ参加して下さる事に対する労いも含め、今年も夏祭りを開催しました。

夏祭りの縁日といえば、皆様はどのような出し物、食べ物が思い浮かぶでしょうか。今回は幼少期に多くの方が思い出としてある『射的』『ヨーヨーすくい』『盆踊り(炭坑節)』『駄菓子屋さん』を行い、飲み物としては『ラムネ』をご用意しました。

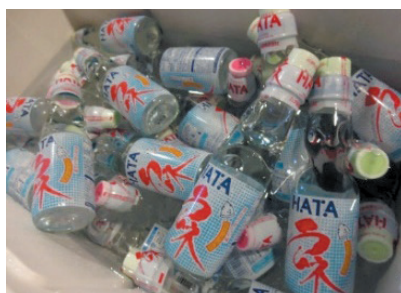
射的では患者様の病棟生活がより良くなり、喜んでもらえるような日用品や飲み物、お菓子を景品として用意しました。射的の銃で欲しい景品に狙いを定め、真剣に取り組んでいる姿勢が印象的でした。

ヨーヨーすくいでは、駄菓子を選べる順位がヨーヨーの底に書かれており、多くの患者様が集中して釣り糸をプールに垂らしていました。その後は釣り上げたヨーヨーを片手に、事前に練習を重ねてきた炭坑節を行い、意気揚々と病棟内を踊りながら回りました。

ひと汗かいた所で、おやつタイムです。数十種類の昔懐かしい駄菓子の中から好きなものを3種類選んで頂く形にしました。どれを選ぶか迷ってしまう患者様がちらほら、全員が駄菓子を選び終えラムネを片手におやつタイムが開始されます。ラムネの開け方がわからない、上から押さえつける力が弱く蓋が開かない、というような患者様が多くみられたのは意外でした。昔懐かしい駄菓子と共にビー玉をカラカラと鳴らしながら、気持ちよさそうに喉を潤していました。

夏祭りでは、普段作業療法への参加が少ない患者様の顔をみられ、病棟のスタッフからのご協力もあり、今年も無事病棟夏祭りを終えることが出来ました。患者様からは「幼少期を思い出した」「射的が楽しかった」「駄菓子が美味しかった」等の感想を頂き、普段の様子とは違い生き生きとした一面がみられ、開催することができてホッとしております。

今後も患者様が季節感を感じることができ、病棟全体がさらに活気くような行事を開催していきます。コロナ禍の終息に伴い、地域の方や病棟間で交流できる機会が来ることを望んでおります。



## こころの扉 その214

～どうしてもその行動をとるのか・どうしてもその行動は続くのか～

心理療法科 公認心理師 伊藤 冬花

厳しい暑さに夏バテ気味の方も多いのではないのでしょうか。冬生まれの私は夏が特に苦手な時期でして、秋が到来するのが待ち遠しい気持ちです。

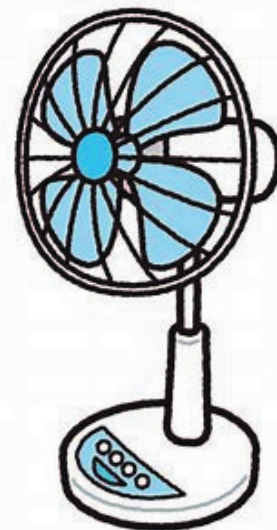
私は最近ついついクーラーを使いすぎてしまします。夜もクーラーをつけたまま寝ることが頻繁にあります（タイマーにしても寝苦しくて深夜に起きてしまします）。しかし昨今の電気代高騰の波に煽られまして、いよいよクーラーの使い方を見直そうと思うようになりました。

ここで行動分析という考え方を紹介したいと思います。行動は、きっかけとなる直前の状況があって生じます。そして、行動によって何か良い変化（メリット）があればその行動は繰り返し起こるようになります。逆に、行動によって悪い変化があれば、その行動は減って起こらなくなったりします。この考え方を当てはめると《きっかけ：寝室が暑くて寝苦しい》、そして《行動：クーラーをつけっぱなしで寝る》、それによって《結果：快適に眠ることができる》となります。良い変化（メリット）が得られているため、《行動：クーラーをつけっぱなしで寝る》が繰り返されてしまうことが分かります。

ある行動を減らしたいとき（増やしたいときも同様）、《きっかけ》と《結果》に注目してみるとヒントが見えてきます。《きっかけ》と《結果》が変わると、その行動も変化があ

るからです。今回私は《きっかけ》に注目して考えてみました。すると、《きっかけ：寝室が暑くて寝苦しい》の背景には、まだ扇風機を使っていなかった、タオルケットが厚手だった、寝る前に体操する習慣のせいで身体が温まっていた等が関わっていきそうだと分かりました。1つずつ見直していったところ、《行動：クーラーをつけっぱなしで寝る》は減り《クーラーのタイマーをつけて眠る》という行動に変わっていきました。それでも十分快適に朝まで眠ることができています。

当たり前のように感じるかもしれませんが、意外と行動の前後関係を観察する視点は見落としやすいものです。皆さんも減らしたい行動・増やしたい行動がありましたら、「どうしてもその行動が起きているのか？その行動のきっかけは？」と考えてみると、何か糸口が見つかるかも知れません。



## 入院受け入れの動向 ～コロナ禍の当日・翌日入院について～

医療の質向上促進委員会  
認知症疾患医療センター・医療相談科 椎名 貴恵

平川病院では、入院相談に迅速に対応するため、入院のご依頼をいただいた当日と翌日に入院された件数を「当日・翌日入院」として集計しています。今回は2019～2021年度の「当日・翌日入院」の動向を振り返りました。

コロナ禍の入院では、2020年8月から患者様にPCR検査を受けていただくことになりました。この検査は、入院患者様が病棟に入った後にコロナに感染していたことがわかると院内感染に繋がる可能性があるため、病棟に入る前に感染の有無を確認するために導入しました。PCR検査は外部の検査会社に依頼するので、結果がわかるまでに2日位の時間が必要でした。この間、患者様には陰性が確認できるまで個室で過ごすようご協力いただきました。利用できる個室には限りがあるので、この時期の入院調整はコロナ以前より時間を要することもありました。2021年11月からは、抗原定量検査を導入しました。この検査は、院内で40～50分後に結果がわかるため、入院初日に個室に入院していただく必要はなくなりました。

このような状況にあった2019年度から2021年度の入院数と「当日・翌日入院」の件数を「表①」にまとめました。入院数では2020年度は減少しましたが、2021年度の件数は最も多くなりました。半面、「当日・翌日入院」の件数は2020年度、2021年度ともに減少しています。

「表①」

年度	入院数	当日・翌日入院	当日入院の割合
2019年度	591件	280件	48%
2020年度	562件	220件	38%
2021年度	605件	204件	34%

その背景を知るため「当日・翌日入院」の件数の多い紹介元の上位3つを「表②」にまとめました。

「表②」

年度	医療機関	当院外来	介護保険施設等	
2019年度	94件 (34%)	65件 (23%)	37件 (13%)	196 (70%)
2020年度	88件 (40%)	42件 (19%)	28件 (13%)	158 (72%)
2021年度	84件 (41%)	44件 (21%)	16件 (8%)	144 (70%)

( )内は「当日・翌日入院」に占める各項目の入院の割合

医療機関からの紹介は若干、減少していますが、ほぼコロナ前と同様の実績でした。当院外来と介護保険施設等からの紹介は減少しましたが、PCR検査等で時間を要することを見越して早めに入院調整に入り、「当日・翌日入院」にならなかったことなどが考えられました。今回の振り返りではコロナの影響を予想していましたが、「当日・翌日入院」の割合は3年度とも70%代だったので、入院については、患者様の事情に即した対応に時間が必要になることもあったと考えました。

「当日・即日入院」の件数は減少しましたが、2021年度の入院数が最も多かったことは、コロナ禍でも平時と同様の業務を続けられた結果と言えるのではないのでしょうか。それは、全職員の日頃の感染対策の実行により、実現できたことだと思います。

# 1年を振り返って

医療相談科 精神保健福祉士 菊谷 真緒

令和3年3月より医療相談科に勤務しております菊谷真緒と申します。前職は営業の仕事をしておりましたが、仕事に携わるうちにもっと誰かのお役に立てる仕事をしたいと思うようになりました。そんな時ご縁あって平川病院に入職することとなりました。

早いもので入職から1年が過ぎ、精神保健福祉士としての経験も浅く科内では迷惑をかけてしまう日々でしたが、上司・先輩方からの指導を受け、入院対応等科内の行える業務を広げることが出来ました。

令和4年度からは、東3病棟の担当となりました。病棟のスタッフミーティングでは、患者様を中心にした治療や看護目標等について他職種の専門的な方針や考えを聞き、様々な視点で関わる大切さに触れ、日々新たな発見しながら業務にあたっています。私自身も精神保健福祉士として意見を求められる場面もあり、いまだ不慣れで自身の考えを言葉にする難しさ、責任を痛感するとともに成長の機会になっています。また科内の業務である、新規の入院相談対応を段階的にはじめています。入院を考えている、患者様・家族の方には入院生活のこと、費用のこと、退院後の生活のこと等様々な不安があるかと思えます。必要事項を聞きとることだけに終始せず、患者様・家族の思いなども聞くことを大切にしながら対応していくことで病院の理念である「患者さんの不安をとること」を実現していけるように精進してまいりたいと思います。



筆者

## 編集後記

夏休み・・・小学校1年生と言えば、アサガオ。種さえきちんと穴に置いて水やりをすれば、だれでも花を咲かせることができる？から。双葉・本葉と出て、左巻きのツルが伸びて支柱を立て、きれいな花が咲いて、種が収穫できて・・・と、観察にはもってこい。アサガオはもともと『朝顔』と書くので(容=「美しい容姿」)、「朝の美人さん」となります。アサガオの花は「朝が来たから咲く」のではなく、体内時計が日没にリセットされ、8~10時間後に(夜を感じて)花が咲きます。なので日の出前には咲いています。残暑見舞いと言うにはまだ早い？ですね。頑張りましょう。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

